

【東京交通サービス（株）】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

交通事業の総合保守管理を担うリーディングカンパニー

重要課題 ①

都営地下鉄等の安全確保や利便性の更なる向上が求められる中、自立的な経営環境の確立に向け、人材の育成・定着や他の事業体との協働、技術力の維持・向上や新技術への対応などについて、いかに取り組んでいくか

検討の状況や今後の方向性

- 人材育成や技術力の向上を図るため、交通局からの技術継承に加え、外部のノウハウを積極的に活用することとし、他社の経験豊富な人材の採用や、同業他社への派遣、外部のセミナー受講を拡大
- 働きやすい職場づくりを通して新入社員の定着率の向上を図るため、リファラル採用を実施するほか、相談相手となるメンター制度を今年度7月から新たに導入
- 新技術の活用については、試行的に発電所設備における危険箇所の確認作業にドローンを活用。その他、若手社員の作業を遠隔支援するツールの導入などを局やメーカーと協働しながら検討
- 引き続き、人材育成や新技術の活用を通して、総合保守管理を担う強みを強化し、交通局グループとして都営交通の安全・安心により一層貢献

【 東京交通サービス（株） 】の課題と今後の方向性

重要課題 ②	都営地下鉄の安全・安心の確保のため、設備の老朽化・複雑化や、東京2020大会を支えるための開催前後の保守体制など、環境変化に対していかに柔軟に対応できるか
検討の状況や今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">○ 設備の老朽化が一斉に進行するため、従前、交通局が行ってきた工事監理業務や保安立会業務について当社が受託を拡大し、局と一体で着実な対応を実施○ 加速する技術の進展に対応するため、駅のホームドアや防犯カメラなど、新たな安全設備について、設備の製造過程や設置工事の時点から積極的に情報収集を行い、設置後に、速やかに円滑な保守を実施○ 東京2020大会に向けては、施設・設備の保守点検作業について、複数年にわたり工程を調整することで大会期間外に行うなど、特別な対策を実施。また、障害発生時等の対応について、交通局と連携して対応できる体制を整備